

第18回症例検討会

case33

2022年 6月 13日

「鍼灸施術中に起きた胆石(疝痛)発作」

40代 男性

主訴：手足のしびれ感、腰痛

医療機関：大学病院

内服薬：シタグリプチンリン酸塩水和物錠 2.5 mg

メコバラミン錠

疎経活血湯エキス顆粒、牛車腎気丸

生活歴：アルコール：5日/週 喫煙なし 食事：自炊しない

アレルギー：スギ、ヒノキ

現病歴：

Ⅱ型糖尿病で大学病院に通院。

手足のしびれや腰痛があるため、鍼灸を受鍼するに至る。

鍼灸院へは友人からの紹介。

客観的情報

マッチョ～レスラーのような体型

検査：

コリンエステラーゼ 553 (IU/L)

クレアチニン 1.17 mg/dL

HbA1C 8.3%

血糖 228 mg/dL

東洋医学的情報

証：肝胆湿熱

寒熱：暑がり 燥湿：のど渴きやすい

汗：よくかく

食事：外食多い

睡眠：不眠傾向

背中全体が張っている(ジムでトレーニングをしている)

脈診：やや数、濇、実、弦

治療

取穴：背部兪穴に置鍼・点灸 手足の要穴 頭

刺鍼法：補 置鍼

得気：無

深さ：4～10 mm

通電：無

頻度：1/2w

経過

- X年4月 知人の紹介で初鍼。
主訴は腰痛と手足のしびれであった。
- X年8月 10鍼目。
鍼灸施術中、伏臥位の置鍼中に痙痛発作を発症。
術者は隣のベッドで他の患者さんの施術を行っていた。
突然、うめき声が聞こえ、急いでベッドに戻ると
大量の汗と共に悶絶していた。
ご本人から胆石(痙痛)発作と思うとの事。
救急車を呼び、かかりつけの大学病院へ運ばれた。
- X年9月 経過のお話をかねて来院。
しばらく鍼灸は怖いとのことで
整体とマッサージで対応となった。

考察

患者さんの既往歴・病態をよく把握して
鍼灸施術を行う事が大切だと感じた。

ガイドラインにもあるように
病歴をしっかりと聴取する大切さを理解した。

内臓反射や自律神経反射により
胆石が動くかもしれない可能性について
注意を払っていれば防ぐことが出来た可能性がある。

問い

腰痛の訴えには、結石によるものが含まれている。
鍼灸施術が石を動かす事がある。

多岐にわたる腰痛の原因をどのように把握すればよいのか？？

鍼灸の適不適をどこで判断すればよいのか？？

事前のインフォームドコンセントは？？

文献

ガイドライン

日本消化器病学会ガイドライン 「胆石症」

<https://www.jsge.or.jp/guideline/guideline/tanseki.html>